

「外国人居住者らと地震備え防災教室 安否確認や情報収集」

彦根の共同住宅

外国人居住者らと 地震備え防災教室 安否確認や情報収集

地震発生時の適切な行動や備えを学ぶ防災教室が25日、彦根市川瀬馬場町の共同住宅で行われた。ブラジルやペルー出身の居住者らも参加し、防災意識を高めた。

共同住宅を管理する「レリッジハウス・マネジメント」(東京)が主催し、県地域防災アドバイザーの笠原恒夫さんが講師を務めた。参加者らは、地震発生時の身を守る動作を確認するシエクアウ



非常時に活用される「かまどベンチ」を見学する防災教室の参加者ら(彦根市川瀬馬場町)

ト訓練をしたほか、消火や家族の安否確認、防災情報の収集法、自宅の家具の固定対策などを学んだ。近頃の避難所までの経路も動画で紹介され、落下物や道路のひび割れに注意する▽要援護者は車いすや背負って避難する▽自宅を離れる際はブレーカーを切るなどの注意点や、プライバシー配慮や感染症対策といった避難所生活の心得も確認した。敷地内には、彦根工業高の生徒たちが作った「かまどベンチ」も設置された。非常時に炊きだしで活用される。

参加した女性(28)は「自分の身は自分で守り、周りのみんなを助けないといけないと感じた。家の中でも安心できるよう対策をしたい」と語った。(今川敢士)